

CONTENTS

「蘭学・洋学 三津同盟」締結記念巡回展 文明開化と明六社	2
後期企画展 描かれた黒船艦隊	3
友の会のページ	4
NEWS FILE・新収蔵資料紹介	5・6
資料館展示品から	7
INFORMATION（催し物のご案内）	8

洋学 資料館

No. 33

March, 2024



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

津山城から城東の家並みを望んでいます。足下には自然要害として城に添い吉井川に流入する宮川が見えます。旧出雲街道に添って町家は東へ発展したのですが、幕末の対米口交渉に活躍した洋学者の箕作阮甫（西新町）や、オランダ留学を果たした津田真道（林田：今は上之町）はこの城東で生まれ育ちました。城の東壁はすべてを拒絶するようにそそり立ち威風を放っていますが、それを日々眺め暮らしていた彼らの心境はどうだったのでしょうか。ここに佇んでいると、いつもそのことに思いをはせてしまうのです。

文・写真：名誉館長 下山純正



「蘭学・洋学 三津同盟」締結記念巡回展

結成150周年記念

文明開化と明六社 ー津山・津和野・中津の思想家たちー

■会期・令和5年8月19日(土)～9月24日(日)

1873(明治6)年、日本初の学術団体「明六社」が結成されました。明六社には、2021(令和3)年に「蘭学・洋学 三津同盟」を締結した、津山市・大分県中津市・島根県津和野町の三市町出身の優れた洋学者、津田真道・福澤諭吉・西周などが、深く関わっています。明六社を通して、彼らはどんなことをしようとしたのか。結成から150年を迎えたことを記念し、明六社のあらましをご紹介します企画展を、津山市を皮切りとして三市町で巡回して開催するのが本展です。なお、津和野展は9月30日から11月5日まで津和野町郷土館にて、中津展は11月11日から12月17日まで中津市歴史博物館にて、それぞれ開催されました。展示資料は、会場となる三施設および中津市の福澤旧邸保存会、津和野町の森鷗外記念館が収蔵する資料の中から、津田・福澤・西らの肖像画や遺品、著作物・書簡や揮毫した書など、彼らの人となりや偲ばれるものを選び抜きました。また、明六社の結成から事実上の解散に至る経緯などをまとめた解説パネルも用意し、明六社が文明開化の時期に果たした役割に光を当てました。

開幕当日には、オープニングセレモニーをGENPOホールで開催し、奥塚正典中津市長と下森博之津和野町長から祝福のメッセージをお寄せいただき、谷口圭三津山市長のごあいさつに続いて代読・披露され、展覧会に華を添えていただきました。また、会期中の土日には、職員による展示解説も行い、三市町で締結した「三津同盟」についても説明しました。

本展をきっかけとして、三市町のさらなる交流の深化が期待されます。この巡回展の開催にご協力いただきました関係者の皆さま、まことにありがとうございました。

後期企画展

ペリー来航170周年記念 描かれた黒船艦隊

■会期・令和5年10月7日(土)～令和6年2月18日(日)

1853(嘉永6)年ペリー率いるアメリカ艦隊が日本へ来航し、アメリカ合衆国大統領の親書を幕府へ渡して行きました。外国文書の翻訳を任務とする幕府の蕃書和解御用に出仕していた箕作阮甫は、幕府の命により同僚とともに4日をかけ、親書の翻訳を行いました。そして翌1854(嘉永7)年には、ペリーは親書の回答を聞きに再び来航することになります。

この2度の来航の際、津山藩では箕作秋坪等を派遣し情報収集を行わせています。秋坪は最初の来航の際には浦賀へ向かう途中、測量をしていたアメリカ艦隊の小船に遭遇し、約10メートルの距離まで近づいていたことなどが記録に残っています。また、2度目の来航の時には、アメリカ人と接触を試みており、サラトガ号の乗組員であるJ.R.ゴールズボロー大尉の名刺と紙巻きタバコを入手しています。これらは報告のため藩へ提出したようで、この名刺とタバコを貼り付けた絵巻が残されています。

また、仙台藩士の大槻磐溪がペリー来航の様子を藩主へ説明するためにまとめた『金海奇観』には津山藩の絵師である鋏形赤子が描いた絵も含まれています。その他にも外国船を描いた瓦版や、海岸防備に諸藩を動員して配置をした様子が分かる絵図など色々な資料も現存しています。

今回の企画展では、ペリーが来航してから170周年となるのを記念し、館蔵資料の中から、異国船を描いた絵画資料を中心に、当時の異国船来航の様子をご紹介します。

展示期間中は一部展示替えを行い、多くの方々にご覧いただくことができました。観覧された皆さまは、170年前、ペリー艦隊が来航し、幕末・維新へと向かっていく当時の日本の様子に思いを馳せておられました。

友の会
の活動
■ 創立40周年記念祝賀会
阿蘭陀料理の夕べ Part 9 開催!



11月4日(土)、友の会創立40周年記念祝賀会をザ・シロヤマテラス津山別邸で開催しました。昭和56年3月22日発足した友の会は、令和3年に40周年を迎えました。同年に記念祝賀会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い延期。今年度、2年越しの開催となりました。

小原龍二会長のご挨拶に続いて、下山純正名誉館長と小島徹館長が「すべてはそこか」からはじまった「阿蘭陀料理の夕べ」は新館建設への胎動か」というテーマで、資料館と友の会の歩み、「阿蘭陀料理の夕べ」を始め、たぎっかけや、苦労話、オランダ領事館との関わりなどを対談されました。

その後、中島浩明副会長の乾杯のご発声で料理がスタート。森島中良著『紅毛雑話』に記されたオランダ料理から8品をフルコース風に再現し、普段味わうことのない料理を楽しみました。藤枝料理長から、現代とは違う調理法や味付けについての説明もあり、皆さん、興味深そうに耳を傾けていました。

前回の35周年祝賀会から実に7年ぶりの開催とあり、この日を心待ちにされていた方も多くいらっしゃいました。久しぶりの食事で懐かしい再会、新たな出会いなどもあり、皆さま思い思いの時間を過ごされたようです。

■ 第36回史跡見学会
真庭市南部の史跡を訪ねて

12月3日(日)、第36回史跡見学会を実施しました。今回は、真庭市南部(旧久世・落合・北房町)の洋学関係史跡を巡りました。

最初に訪ねたのは、久世の正法山興善寺です。興善寺には、江戸後期に久世の庶民教育を担った典学館の旧門が移築されています。境内にある菊池正因(箕作秋坪の曾祖父で、典学塾の塾頭を務めた)の墓所と合わせて参拝しました。

次に落合総合センター前にある石井宗謙の顕彰碑へ。宗謙は旧落合町旦土出身の蘭学者で、顕彰碑の題字は蘭学研究の大家・緒方富雄氏が揮毫しています。

続いて、真庭市関の鈴木家のお宅を特別にご厚意で拝見させていただきました。古くから医業を営んできた鈴木家には、江戸後期から明治期にかけての多数の医学書が伝来し、それらの蔵書は数年前に洋学資料館へ寄託されています。明治15年建築の主屋には「調



鈴木家の前で記念撮影

合の間」などかつての医家の屋敷としての名残を各所にとどめていきます。ご当主の奥様に丁寧にご案内いただきました。

最後に、典学館が移転した下皆部(旧北房町)の教諭所跡地と、箕作秋坪の父で教諭所の副責任者をつとめた菊池文理の墓所にお参りしてその業績を偲びました。

天気にも恵まれ、充実した見学会になりました。

NEWS FILE

「追悼津山が生んだ、日本の歴史学者 山本博文先生 講演とシンポジウム」開催



山本博文先生

10月21日(土)、山本博文先生の追悼講演とシンポジウムを、津山鶴山ホテルで行いました。(津山郷土博物館と津山洋学資料館の共同開催)

津山市出身で東京大学史料編纂所教授、東京大学大学院教授を務めていた山本先生は、日本近世史、歴史社会学の研究が専門で、多くの著書をご執筆です。また、テレビなどのメディアでも活躍されていますが、令和2年3月に63

歳で急逝されました。山本先生には、洋学資料館の新館がオープンした平成22年に津山市で開催された洋学シンポジウムのパネラーとしてお招きしたことをきっかけに、市内で新たに発見された書簡の鑑定をお願いしたり、さらには平成24・26年の上廣倫理財団歴史文化フォーラムで基調講演や対談をしていただきました。

この度の講演とシンポジウムでは、山本先生と親交の深かった、共立女子大学教授の堀新先生に「山本博文先生と織豊期研究」、長崎県立大学教授の松尾晋一先生に「鎖国と海禁の時代」からの学び、東京大学教授の松澤克行先生に「史料編纂所員としての山本博文さん」、清泉女子大学准教授

の福留真紀先生に「山本博文先生―研究者、そして教育者として」と題してご講演いただき、続いて東洋大学教授の岩下哲典先生進行によるシンポジウムでは、山本先生の活動や思い出について講師陣が語り合いました。150名の聴講者が詰めかけ、山本先生を偲ぶのにふさわしい盛況ぶりでした。



シンポジウムの様子



中学生、職場体験を実施

岡山県立津山中学校の2年生3名が、10月17日(火)から20日(金)までの4日間、津山市立東中学校2年生3名が10月24日(火)から26日(木)までの3日間、資料館で職場体験を行いました。

古文書の撮影や見学者への展示解説、拓本など、様々な仕事を体験してもらいました。

終了後には、「古い資料を扱うことの大変さや記録を残すことの難しさを知ることができた」、「今回の体験を将来に生かしていきたい」などの感想を寄せてくれました。



NEWS FILE

オムニバス講演会を
開催しました

1月28日(日)、GENPOホールにてオムニバス講演会(学芸員による研究報告会)を開催しました。今年度のテーマは「新製輿地全図から作られた地球儀とは?」明石市に残る地球儀とその作者についてです。

まず、梶村学芸員は「新製輿地全図と箕作省吾について」と題し、津山郷土博物館に所蔵されている



「勤書」「江戸日記」の史料を用いて、省吾が箕作家の婿養子となつた経緯や労咳(結核)を患つて亡くなる数日前の様子などを紹介したほか、「新製輿地全図」の特徴を概説しました。

次に、小島館長が「明石市現存の地球儀と作者について」と題して発表しました。この地球儀は、明石市立文化博物館に所蔵されており、令和4年度秋季企画展「蘭学者が見た世界」の準備中にその存在を知り、翌年に調査しています。箕作省吾の「新製輿地全図」との比較により、この地図をもとにして作成された地球儀であることを確認したうえで、地球儀の作者である明石藩医・藤村覃定(宗禎)の人物像と渡辺華山との関わりを紹介しました。

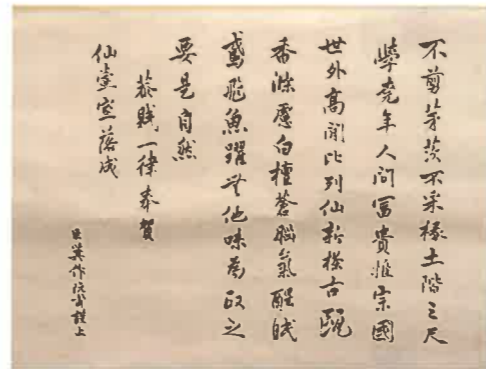
当日は数日前の寒波が嘘のような温暖な気候に恵まれ、当初の定員を上回る88名の方にご聴講いただきました。みなさん興味深く画像を見られており、関心度の高さが伺えました。

新収蔵資料紹介

寄贈

■呉家関係資料 21点

箕作阮甫の孫で精神医学者であった呉秀三のご子孫である呉秀男さんから、箕作阮甫や娘婿の呉黄石の書の掛軸、箕作家・呉家の一族どうしでやり取りした書簡などをご寄贈いただきました。



呉黄石の書(左)と箕作阮甫の書

■箕作阮甫50周年祭写真 1点

箕作阮甫の義理の孫で、宮内省官僚だった日高秩父のご子孫・杉本淳子さんから、阮甫没後50年祭の写真をご寄贈いただきました。



■筆筒 1点

箕作秋坪の娘のなおが嫁いだ人類学者・坪井正五郎のご子孫・坪井滋さんから、なおの輿入れ筆筒をご寄贈いただきました。



資料館展示品から

玄真への高い評価を示す
蘭学者相撲見立番付



玄真を東の大関に格付けた番付(複製パネル)

※ 原資料は早稲田大学図書館所蔵



玄真の右隣の張出大関には、木骨を作った星野良悦の名があり、「当角力の骨(この相撲の中心人物)」と説明があります。

今でも長者番付などがありますが、歌舞伎や相撲の番付に見立ててさまざまなものを順序づけることは、江戸時代後期から盛んに行われていました。その一つが、今回紹介する「蘭学者相撲見立番付」です。

この一風変わった番付は、蘭学者たちが太陽暦の正月を祝った「新元会」の席で遊びで作ったものといわれていますが、当時活躍していた蘭学者80人の名前がずらりと並び、彼らの実力や地位をよく物語っているのです。現在は早稲田大学図書館が所蔵していますが、元の持ち主はなんと津山藩の藩主・松平齊民でした。

それでは内容を詳しく見てみましょう。中央部分には勳進元(世話人)として大槻玄沢と桂川甫周、年寄には杉田玄白、前野良沢といった江戸蘭学の創始者たちの名前が並びます。

右上を見ると、東の大関には「作州 宇田川玄真」と、津山藩医・宇田川玄真の名前が挙げられています。このころはまだ「綱」は地位ではなく、大関や関脇の中でも特に優れた力士に与えられた土俵入りの免許のことをいいます。ですから大関が番付の最高位で、玄真の実力が一番ということなので

玄真の隣、関脇には『ハルマ和解』の編さんで有名な稲村三伯の名前が並んでいます。この番付が作成されたのは1798(寛政10)年、ちょうど玄真が三伯の義弟として宇田川家を相続した年でした。

これほど高い評価を受けた玄真の実力は、日々の努力によつて築かれたものでした。幕末に津山藩町奉行を勤めた馬場貞観が記した『老人伝聞録』には「玄真は日夜机に向かつて蘭書の翻訳をしていて、病気のとき以外は布団で眠らず、眠くなると座ったまま眠っていた」とあります。そのため、夜に玄真の部屋の前を通ると、どんなに遅くても障子に坊主頭の影が映っていたのだそうです。

そんな玄真に学ぼうと、各地から多くの門人が集まりました。養子となった榕菴を始め、坪井信道や箕作阮甫、緒方洪庵など、その数は数百人にも及んだといわれています。彼らによつて次代の洋学研究は支えられていくのです。

文・当館HP「洋学博覧漫筆」12から転載

INFORMATION

令和6年度の催し物(予定) 企画展

4月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「資料が秘めた物語Ⅴ」 13 第77回文化講演会 13 友の会総会 (休館日：15・22・30日)	資料が秘めた物語Ⅴ
5月	(休館日：1・7・8・13・20・27日)	
6月	<ul style="list-style-type: none"> 友の会研修バス旅行 (休館日：3・10・17・24日)	
7月	<ul style="list-style-type: none"> 27 親子でヒンデローペンの作品づくり 28 ヒンデローペン絵付け体験教室 (休館日：1・8・16・17・22・29日)	
8月	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代の化学書からの再現実験教室 からだのしくみを学ぼう！ (休館日：5・13・14・19・26日)	～9/8
9月	<ul style="list-style-type: none"> 28 企画展「中津藩の蘭学の夜明け(仮)」 (休館日：2・9・17・18・24・25・30日)	9/28～中津藩の夜明け(仮)～11/4
10月	(休館日：7・15・16・21・28日)	
11月	<ul style="list-style-type: none"> 23 企画展「津山藩最後の藩医 芳村杏斎(仮)」 友の会史跡見学会 (休館日：5・6・11・18・25・26日)	11/23～津山藩最後の藩医芳村杏斎(仮)～2/16
12月	(休館日：2・9・16・23・29～31日)	
1月	<ul style="list-style-type: none"> 26 オムニバス講演会 (休館日：1～3・6・14・15・20・27日)	
2月	(休館日：3・10・12・17・25・26日)	
3月	(休館日：3・10・17・21・24日)	

■企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会



・・・ 刊行物のお知らせ ・・・

■ 洋学研究誌『一滴』第31号を刊行します

目次

- 高野長英『濯除汚点術』と蘭書原典 … 野村正雄
- 令和4年度企画展報告
 - 津山洋学の名品展
 - 蘭学者が見た世界
 - 鶴田藩医能勢家資料展
- 洋学研究誌『一滴』収録論稿目録(第30号まで)
- 元和偃武にいたるまでの江戸幕府による大砲の入手について … 土井康弘

3月刊行 全72頁 500円

※催し物は予告なく変更となることがあります。なるべく資料館ホームページでご確認ください。

ご利用案内

- 開館時間／9：00～17：00 (入館は16：30まで)
- 休館日／月曜日(祝祭日の場合はその翌日) 祝祭日の翌日・年末年始(12月29日～1月3日)

入館料

一般	一般(65歳以上)	高校・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)	200円 (160円)

※()内は30名以上の団体料金です。
※小学生・中学生は無料です。



〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



交通のご案内

- JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- 中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分